

### 第23回 STSとDRT ①

#### 福祉輸送のキーワード STSとDRT

2010年最初のテーマはSTSとDRTです。このコーナーをお読みの方のなかには“聞いたことがある”という方も少なからずいらっしゃるでしょう。というのは、近年この2つの言葉はともに福祉輸送の議論によく登場する言葉だからです。

STSとDRTはいまや高齢者や障害者の移動について考える際に不可欠なキーワードになりつつあります。しかし、なぜ今STSとDRTがそれほどまでに重要なのでしょうか。それを知るためには、STSとDRT、それぞれの言葉の意味をおさえておく必要があります。

#### 実は広くて深い STSの定義

まず今回はSTSについてみてみましょう。STSとは、スペシャル・トランスポート・サービス(Special Transport Service)の略語です。では、具体的にはどのようなものを指すのでしょうか。辞書では次のような説明があげられています。

バスや電車など既存の交通手段では外出が困難な高齢者や障害者など移動制約者のために便宜を図る交通サービスの総称。低床バスやリフト付車両などによるドア・ツー・ドアの移動サービスなど。

STS。(出典：大辞林第二版)

辞書の説明にあるように、STSは特定少数(移動制約者)を対象とした既存の交通手段によらない“Special(特別な)”交通サービスの総称です。

身近なSTSといえば、やはり透析患者の通院送迎でしょう。ただし、STSという言葉は総称なので、このなかには通院送迎以外にも様々なサービスが含まれるという点に気をつける必要があります。しかし、日本国内では、高齢者や障害者を対象に福祉車両等を用いて行う、乗降介助と一体化したドア・ツー・ドアの個別移送を指す具体的な言葉として用いられるケースが一般的です。例えば、「バリアフリー新法」関連文書のなかでSTSは、“要介護者等の移動を対象とした個別輸送サービス”と解説されています。

#### STSの特徴 便利だけどコスト高

そのようなSTSの最大の特徴は「一人の利用者のためだけ」に提供されるサービスであるという点です。

例えば、介護タクシーによる通院送迎を想像してみましょう。車は自宅前まで迎えに来てくれ、乗降時も介助者がいるので利用者は安心です。また、送迎の時間を透析の開始・終了時間に合わせてお願いするなど、利用の自由度の高さが特徴です。しかし、このような送迎サービスを使えば、バスや電車等に比べはるかに高い利用料を負担しなければなりません。この利用料の高さもSTSの特徴です。

バスや電車等は多くの人を一度に運ぶことで利用者一人当たりの料金を抑えています。その真逆にあたるSTSはどうしてもコスト高になりがちです。利用料の高さは利便性の裏返しなのです。

今回は…

STSとDRT ②